おもしろいね！が，きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo（アッティーヴォ）」とは，イタリア語で
「活動的な，行動的な」という意味です。

みやシニア活動センター通信 vol.４１
（令和２年１０月発行）

コロナに負けずボランティアを続けています！

前号で，今年 10 月に開催される予定であった「かごしま国体」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となり，どうなるんだろうと書いた。鹿児島県出身者として，ものすごく気になっている。しかも，このタイミングで鹿児島県知事が三反園知事から塩田知事に変わった。

来年が三重県，22 年には我が栃木県で「とちぎ国体」が開催されることが決定している。さらに 23 年佐賀県，24 年滋賀県開催が内定している。それ以降の開催地も内々定している。また 23 年からは「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」への名称変更が決まっている。佐賀国体からになる。

７月 31 日，塩田知事は佐賀県山口知事にかごしま国体を 23 年に開催する協力を求めた。山口知事は前向きに検討すると発表し，８月 19 日に１年延期受け入れを表明した。鹿児島県は同じ九州と言うだけでなく，佐賀県とは昔から歴史的な交流（薩長土肥）がある。絆がある。鹿児島県はうまいなと思う。ただ，佐賀県は最初の「国民スポーツ大会」の開催県は譲れない，としている。これについては，日本スポーツ協会とスポーツ庁が「24 年」からの佐賀国体からの名称変更を約束している。

一方，もう一つの押し出される形になる 24 年の滋賀国体について，滋賀県の三日月知事は１年延期の要請を受け入れる意向である，と９月 15 日に表明した。

現在コロナ禍の中，熱中症，台風，大雨・・・暗いニュースばかりだ。でも日本も捨てたものじゃないと少し思えてきた。

さて，今回はコロナで明日が見えない状況にもかかわらず，ボランティア活動を続けられている３人の方を紹介します。　（肥後特派員）

①

②

③

① 仲間とのボランティアが私の生きがい　宮田栄作さん
② 古賀志山を守ろう会の活動状況　第２報　池田正夫さん
③「温暖化防止活動」に活躍する　大沼晴彦さん

○ 発行／編集　みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭１丁目１番５号　宇都宮市役所２階　高齢福祉課Ｄ８窓口
電話：028-632-2368　　ファクス：028-639-8575
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp

①　仲間とのボランティアが私の生きがい　　宮田栄作さん

取材：肥後特派員

コロナ禍の中，ボランティア活動もいろいろやっていく事が難しくなってきていますが，今回は，いくつものボランティアを掛け持ちでやりながら生きがいを感じておられる，南町在住の宮田栄作さんを紹介します。

宮田さんは７７歳。全く年齢を感じさせない，スマートな紳士です。仕事の都合で宇都宮に赴任され，そのまま宇都宮人となり，４７年が経過しました。

まず始めは雀宮南小学校の「夢農園」ボランティアです。８名の仲間の方との共同作業です。「夢農園」の畑地を耕し，種を植え，肥料を入れ，草を取り，野菜の手入れをし，収穫です。収穫は子供たちと一緒にやります。収穫したものは学校給食で使い，皆で食べます。時には子供たちに家に持ち帰ってもらうそうです。子供は自分が収穫した野菜をお母さんに渡す，これにすごく喜びを感じるそうです。一つの収穫が終わると次はどんな野菜を植えるか８名で考えます。ここに何の種を植えようか？あそこにあの野菜の苗を植えようか？宮田さんの作ったしそジュースを皆で飲みながら考えます。

宮田さんは前橋市出身。実家は農家でご両親，ご兄姉が農作業をされるのを見て育ちました。その影響でしょうか，４９歳の時，壬生町で家庭菜園を始めました。当時は，週休２日のうち１日は家族とドライブやハイキングなど家庭サービスに使いましたが，もう１日は必ず畑に行き家庭菜園を楽しみました。自宅でも野菜をいろいろ植えています。野菜には事欠きません。しそジュースも自宅で出来たしそから作っています。

次に「ＪＣＨＯうつのみや病院付属介護老人保健施設」での奉仕ボランティアです。室内での奉仕作業や植木の手入れなどの作業をしています。１４名の仲間とやっています。

「はりがや」でのボランティア

３つめは針ヶ谷町にある「特別養護老人ホームはりがや」でのボランティアです。８名で室内の清掃，植木の手入れ，そして施設内での夏祭りのお手伝い等いろいろやっておられます。しかし今は新型コロナウイルスの影響で休んでいます。とても残念です。早く収束してお年寄りと話をしたり，仲間と雑談をしたり，そういう状態に戻りたい，と言われます。

宮田さんは「やはり地元を大事にしたい。ＪＣＨＯうつのみや病院を始め，地元の病院，施設を大事にしていきたいし，応援していきたい。その考えでいつまでも続けていく。」と言われました。

宮田さんの趣味は版画だそうです。「随分珍しいですね。」と失礼な事を言いましたが，県内ではあちこちで盛んにやられているそうです。鹿沼のレベルが高く，高根沢もやる方が多いそうです。これからも趣味として続けていかれるそうです。

現在，奥様やご長男夫婦そして２人のお孫さんに囲まれ，家庭菜園とボランティアの毎日で，穏やかでお幸せな日々を過ごされています。最後にこのように言われました。「仲間と会って，一緒にボランティアが出来る。お手伝いをしていることが役立っている。それが幸せです。」

② 古賀志山を守ろう会の活動状況　第2報　池田正夫さん

取材：細川特派員

今年の新型コロナウイルス流行によっての自粛生活下，運動不足解消に古賀志山の登山を楽しんでいるシルバー世代が多いことを知りました。

古賀志山は，宇都宮市北西に鎮座する，標高５８２．８メートル。日本百低山に認定されている宇都宮市民憩いの山です。

しかし，８月にも報道されたような滑落死亡事故も多い，危険な山としての一面もあります。

小学校の遠足や気軽な山歩きができる一方，ロッククライミングや，本格的な登山の練習に，と登山ルートは１００余り。

沢山の入山者により，山が荒らされてしまったことに危機感を持った地元民や登山愛好家が，NPO 法人「古賀志山を守ろう会」を平成 26 年に立ち上げ，古賀志山の環境整備・保護保全・啓発（宣伝）事業の運営・活動を行っています。

「古賀志山を守ろう会」理事長の池田正夫（いけだまさお）さんにお話を伺いました。池田さんには，平成 28 年３月発行アッティーボ２３号に掲載させていただきましたが，当時の会員数３０人から現在１３０人に増え，山の清掃はもちろん，木々の伐採，道標や注意看板の設置，梯子階段，滑落補助用鎖の設置などの登山者の安全，山の保全などの幅広い「古賀志山を守ろう会」活動について，今回更にお話を伺いました。

池田さんは，古賀志山の麓で生まれ，古賀志山を遊び場にお育ちになりました。教職を退職のあと，日光の山々を踏破され，本を出版なさるなどご活躍でしたが，「古賀志山を守ろう会」発足の発起人の一人となり，当時から理事長としてご活躍です。

皆さんは山を歩く時，安全な階段や梯子，鎖をどのように整備や設置をしているのかをご存知ですか？材木の皮を剥ぎ，切断，組み立てをして，会員の方々がその重い材料を背負子で荷上げをして設置しています。ゴミや不法投棄物や伐採した木は，会員の手で麓まで下され廃棄されています。

また，山での遭難，滑落事故も多いことから，緊急連絡路現在地番号（ＩＤ番号）の設置をし，通報の際この番号を知らせることで場所の特定ができて救助に役立っています。古賀志山ほど，全国的に救助ヘリの出動が多い山はないと言われています。

池田さんは，事故は大概下山中で，物に躓いたり，滑落をして頭を打ってしまうなどが多く，岩場を登山する方は，ヘルメットなど装備を万全に！無理をしないように！スマホをお持ちの方は，ＹＡＭＡＰを是非ダウンロードして役立てて下さい，と話されます。また，カタクリの群生や四季折々の草花，景色も素晴らしく，それらを楽しむ色々な登山ルートがありますので，ルールを守って山を楽しんで下さい，とのこと。

流石も人力で撤去します

会の活動，会報誌の作成，趣味のトレッキングなど，毎日お忙しい中，これから初心者向けの案内書を出版したいと話される池田さん。

山の作業は平均年齢７０代の人がします。会員の中には人材が沢山おりますから。

池田さんの後ろには古賀志山を愛する大勢の皆様のお力が見えました。

「守る会」ではない「守ろう会」　私たちの憩いの古賀志山を大切にいたしましょう。

③「温暖化防止活動」に活躍する　　大沼晴彦さん

取材：猶原特派員

皆さんは「環境問題」という言葉に，どのようなことを思い浮かべますか。大気汚染，土壌汚染，水質汚染，ごみ・プラスチック問題，騒音，放射能汚染，自然破壊，地球温暖化，砂漠化，酸性雨，等広範囲に及びますよね。その中でも今回は「環境問題」特にエネルギー（省エネや再生可能エネルギー）問題を通して地球温暖化防止に取り組まれている大沼晴彦さんにお話をお聞きしました。

大沼さんは仙台市出身で退職後，市環境学習センターで環境ボランティア活動の説明を受けたのをきっかけに，活動員として県地球温暖化防止活動推進センターや市環境学習センターに通い知識を広め，環境カウンセラーの資格を取得しました。そして活動母体となる組織（うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会）の立ち上げメンバーの一人として，県や市の環境活動に参加・協力され，お忙しい毎日を過ごされています。

主な活動は

①年１回（10 月又は３月頃）開催の再生可能エネルギー施設や省エネ関連施設（小水力・太陽光・風力・地熱・バイオマス発電他）の見学会の企画・運営。

②宇都宮市及び近隣小学校への環境出前授業の実施。テーマは「地球温暖化防止と再生可能エネルギー」で，主に４年生以上を対象にして１～２時間，講義と実験を行っています。講義はクイズも入れ，実験は水力，風力，太陽光等身近な発電模型を利用して，興味を持ってもらえるよう工夫されています。希望があればソーラーカーの模型工作も行います。地球温暖化は将来に渡って重要な問題ですので，子供の頃から実行することが大切だと感じました。ただ，コロナの影響で授業時間が少なくなり，例年通りの活動が出来ないようです。

③各環境問題のイベントに参加。まず毎年 12 月に行われる県主催の環境イベント「エコテック＆ライフとちぎ」で，省エネチェックソフトによる家庭の簡易エコ診断や省エネ家電に関する展示や説明を行い，人気を博しているようです。また毎年３月に市環境学習センターで行われる「エコまつり」でも，省エネチェック診断・パネル展示・色々な体験工作等を行っています。省エネチェック診断では電気代，ガス代等２３項目に回答すると，同世帯家庭と比較した電気代と二酸化炭素の排出量の結果が印刷され，色々な対策を提案してもらえます。さらに夏休み・春休みを利用した親子参加の「COOL　CHOICE　とちぎ ススメ隊教室や親子講座」で県や市の活動員の方と活動されています。

蝶々夫人（前列右が大沼さん）

このようにご活躍されている大沼さんですが，合唱とランニングのご趣味をお持ちです。合唱は入社時から続けていて，退職後は県の第九合唱団に入り，記念大会では皆さんでオペラ（蝶々夫人）を実演されています。パートはバリトンで毎年「第九」にも出演されています。ランニングは，減量目的に始められ，マラソン大会に毎年出場されています。

最後に我々ができる温暖化防止対策をお聞きしました。

①省エネに努め，無駄な電気を使わない　②ごみの分別と減量　③風力・水力・太陽光等の再生可能エネルギーを使う（ソーラー発電利用等）の３点が重要とのこと。身近に出来ることから行動してみましょう。